

## 専門基礎分野

### 【専門基礎分野の考え方】

専門基礎分野は、看護学の観点から人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を身につけることと、人々の健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基礎的能力を身につけることを目的に科目設定をした。

学習内容としては、「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」では、安全かつ科学的根拠に基づき、正常か異常かを見分けるための科学的知識を身につける。そのため、人体を系統立てて理解するために、解剖生理学、生化学、病理学総論、疾病と治療、微生物学、薬理学、臨床薬理学、臨床療法、栄養食事療法を教授する。又、解剖生理学、病理学総論をもとに、病理学的変化によるもたらされる反応について、看護とのつながりが見えるように専任教員が講義する「病態生理学」を新たに設けた。

「健康支援と社会保障制度」では、人間の健康生活を支える保健医療福祉に関する基本的知識を深めるとともに、関係する職種の役割を通して、多職種との連携・協働の重要性を学ぶ。人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できる基礎的知識を学んでいくために、保健医療論、社会福祉、関係法規、公衆衛生学を教授する。社会福祉、関係法規は学生のレディネスを考え段階的に教授する。

当校では、看護実践能力を高める上で、専門基礎分野は基盤であると位置づけながらも、1年次から3年次まですべての学年において設定している。これは、講義と実習が分断されないよう、専門分野の学習とともに、専門基礎分野の知識を確認し学習することで、問題解決能力・思考性を高めていくことをねらいとした。さらに、学習方法においては、解剖生理学、微生物学、臨床薬理学、臨床療法、栄養食事療法において、演習や事例検討を取り入れ臨床判断能力の基盤づくりをねらいとした。また、多職種との連携、協働の基盤になるよう、医師、薬剤師、管理栄養士、放射線技師、臨床工学技士、社会福祉士などによる講義を設けた。

### 【目標】

1. 人間の身体的側面の系統的理解に必要な基礎的知識を理解する。
2. 人体の構造や機能が障害されたときの人体の変化と回復の過程を理解する。
3. 人体の構造や機能が障害されたときの人体の変化をイメージしながら、看護実践につなげることができる。
4. 人間の健康生活を支える保健・医療・福祉に関する基本的知識を深め、専門職業人としての役割を理解する。
5. 人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できある基礎的知識を理解する。

【構成及び計画】

講義

	科目	単位	時間	学年別計画時期		
				1年	2年	3年
造 人 と 体 機 能 の 構	解剖生理学Ⅰ	1	30	○		
	解剖生理学Ⅱ	1	30	○		
	解剖生理学Ⅲ	1	15	○		
	解剖生理学Ⅳ	1	30	○		
	生化学	1	30	○		
回 疾 復 の の 促 成 進 の 成 立 ち と	病理学総論	1	30	○		
	病態生理学	2	45	○		
	疾病と治療Ⅰ	2	45	○		
	疾病と治療Ⅱ	2	45	○		
	疾病と治療Ⅲ	1	30	○		
	疾病と治療Ⅳ	1	30			○
	微生物学	1	30	○		
	薬理学	1	15	○		
	臨床薬理学	1	15		○	
	臨床療法Ⅰ	1	15	○		
	臨床療法Ⅱ	1	30		○	
	栄養食事療法	1	30		○	
社 健 会 康 保 支 障 援 制 度 と	保健医療論	1	15	○		
	社会福祉Ⅰ	1	15	○		
	社会福祉Ⅱ	1	15		○	
	関係法規Ⅰ	1	15		○	
	関係法規Ⅱ	1	15			○
	公衆衛生学	1	15			○
	合計	26	585	18(430)	5(105)	3(60)

専門基礎分野

科目名	解剖生理学 I	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	30
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 人体の各レベルで構造と機能を関連して理解する視点を身につける 2. 血液の組織と構成要素の機能について理解する 3. 自律神経と内分泌器官の機能について理解する 4. 生体の防御機構機能について理解する 5. 体温調節のメカニズムを理解する			
DP との関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容	授業方法		
1	解剖生理学を学ぶための基礎知識 1) 人体をどのように理解するのか 2) 人体の構成要素としての細胞・組織	講義		
2	素材からみた人体	講義・小テスト		
3	素材からみた人体 機能からみた人体	講義・小テスト		
4	血液と血球の働き	講義・小テスト		
5	血液と血球の働き	講義・小テスト		
6	自律神経とホルモン 自律神経による調節	講義・小テスト		
7	内分泌による調節 内分泌腺(視床下部一下垂体系、松果体)	講義・小テスト		
8	内分泌腺(甲状腺と副甲状腺、膵臓、副腎)	講義・小テスト		
9	内分泌腺(性腺) ホルモン分泌の調節	講義・小テスト		
10	皮膚の構造と機能 非特異的防御機構	講義・小テスト		
11	特異的防御機構	講義・小テスト		
12	特異的防御機構 免疫反応を利用した診断法	講義・小テスト		
13	代謝と運動 体温とその調節	講義・小テスト		
14	「解剖生理学 I」分野からの国家試験必修問題の解説	講義・小テスト		
15	「解剖生理学 I」分野からの国家試験一般問題の解説	講義		
評価方法	筆記試験 小テスト 50%、終講試験 50%を総合して評価する			
教科書	解剖生理学 医学書院 解剖生理ワークブック 照林社			
実務経験				

専門基礎分野

科目名	解剖生理学Ⅱ 呼吸器・循環器	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	30
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 呼吸としての各器官の構造を理解する 2. 身体と外界との間でガス交換が行われるメカニズムを理解する 3. 循環器としての血液系、リンパ系及び、各器官の構造を理解する 4. 循環系のメカニズムを理解する 5. 血圧・心拍・脈拍などの日常において身近な生理学的指標の意義を理解する 6. 体液の調整を司る腎臓の構造と働きを理解する			
DP との 関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容	授業方法		
1	呼吸器の構造	講義		
2	呼吸機能(内呼吸と外呼吸・呼吸のメカニズム・呼吸気量)	講義		
3	ガス交換とガスの運搬、肺の循環と血流	講義		
4	酸塩基平衡	講義		
5	呼吸調節	講義		
6	血液ガスの見方、呼吸器のまとめ	講義		
7	心臓の構造	講義		
8	心電図と心収縮	講義		
9	血管	講義		
10	血圧	講義・演習		
11	循環と病態、リンパ系	講義		
12	腎臓の構造	講義		
13	尿の生成と排尿器	講義		
14	体液の調節	講義		
15	筆記試験 2回			
評価方法	筆記試験 呼吸器 50%循環器 50%を総合して評価する			
教科書	解剖生理学 医学書院			
実務経験	本科目は医師として実務経験のある教員による授業である			

専門基礎分野

科目名	解剖生理学Ⅲ 消化器	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 消化器系としての各器官及び付属する腺の構造と働きを理解する 2. 生活現象としての食物摂取、消化、吸収、排泄のメカニズムを理解する			
DP との関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容	授業方法		
1	咽頭から食道の構造と機能	講義		
2	食道から胃の構造と機能	講義		
3	胃から十二指腸の構造と機能	講義		
4	小腸の構造と機能	講義		
5	膵臓・胆嚢・肝臓の構造と機能	講義		
6	大腸・腹膜・肝臓・膵臓の構造と機能	講義		
7	消化器のまとめ	講義・小テスト		
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	解剖生理学 医学書院			
実務経験	本科目は医師として実務経験のある教員による授業である			

専門基礎分野

科目名	解剖生理学Ⅳ 筋骨格系・脳神経系	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	30
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 骨格及び、筋の構造と働きを学び、身体各支持運動を司るメカニズムを理解する 2. 情報や刺激の受容器としての感覚器の構造と働きを理解する 3. 情報処理及び伝達器官としての神経系構造と働きを理解する			
DP との 関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容	授業方法		
1	筋骨格系の構造と働き(骨、関節、筋)	講義		
2	筋骨格系の構造と働き(体幹)	講義		
3	筋骨格系の構造と働き(上肢)	講義		
4	筋骨格系の構造と働き(下肢)	講義		
5	筋骨格系の構造と働き(頭蓋骨)	講義		
6	神経系の構造と働き(脳幹の機能)	講義		
7	神経系の構造と働き(血液脳関門)	講義		
8	神経系の構造と働き(脊髄神経・脳神経・副神経)	講義		
9	神経系の構造と働き(舌下神経・中枢神経系の障害)	講義		
10	神経系の構造と働き(植物状態と脳死、ブドウ膜)	講義		
11	神経系の構造と働き(網膜、骨迷路、膜迷路)	講義		
12	痛み・神経伝達とその仕組み	講義		
13	中枢神経系・自律神経系	講義		
14	脳・脊髄の保護構造と循環系、認知機能	講義		
15	筆記試験 2回			
評価方法	筆記試験 筋骨格系 50%脳神経系 50%を総合して評価する			
教科書	解剖生理学 医学書院			
実務経験	本科目は医師として実務経験のある教員による授業である			

専門基礎分野

科目名	生化学	開講時期	単位数	時間数
		1年次前期	1	30
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 生体を構成する物質の代謝について学び人間の生命現象を科学的に理解する			
DP との 関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容		授業方法	
1	生体の成り立ち		講義	
2	タンパク質の性質		講義	
3	酵素の性質と働き		講義	
4	糖質の代謝		講義	
5	脂質の代謝		講義	
6	アミノ酸およびタンパク質の代謝		講義	
7	核酸の役割		講義	
8	三大栄養素の代謝		講義	
9	三大栄養素の代謝		講義	
10	ホルモン		講義	
11	ビタミン		講義	
12	ミネラル		講義	
13	恒常性		講義	
14	体液・血液・尿		講義	
15	筆記試験 2回			
評価方法	筆記試験 中間試験 50% 終講試験 50%を総合して評価する			
教科書	わかりやすい生化学 ニーベルヒロカワ イメージできる生化学・栄養学 メディカ出版			
実務経験				

専門基礎分野

科目名	病理学総論	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	30
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 疾患の要因について理解する 2. 組織(細胞～器官)の病的変化について理解する			
DP との関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容	授業方法		
1	病理学とは	講義		
2	細胞・組織の損傷と修復・炎症	講義		
3	細胞・組織の損傷と修復・炎症	講義		
4	免疫	講義		
5	免疫	講義		
6	感染症	講義		
7	循環障害	講義		
8	代謝障害	講義		
9	代謝障害	講義		
10	老化と死	講義		
11	先天異常と遺伝子性疾患	講義		
12	先天異常と遺伝子性疾患	講義		
13	腫瘍	講義		
14	腫瘍	講義		
15	筆記試験 2 回			
評価方法	筆記試験 中間試験 50% 終講試験 50%を総合して評価する			
教科書	病理学 医学書院			
実務経験				

専門基礎分野

科目名	病態生理学	開講時期	単位数	時間数
		1 年次後期	2	45
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 人体の正常機能が破綻し病的な身体の変化が現れる過程を理解する 2. 失われた生理機能の回復にむけた看護実践の根拠となる基礎的知識を身につける			
DP との 関 連 性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容		授業方法	
1	消化・吸収のしくみとその病態生理	腹水①	講義・グループワーク	
2	消化・吸収のしくみとその病態生理	腹水②	講義・小テスト	
3	消化・吸収のしくみとその病態生理	黄疸①	講義・グループワーク	
4	消化・吸収のしくみとその病態生理	黄疸②	講義・小テスト	
5	血液のしくみとその病態生理	貧血①	講義・グループワーク	
6	血液のしくみとその病態生理	貧血②	講義・小テスト	
7	呼吸のしくみとその病態生理	咳嗽①	講義・グループワーク	
8	呼吸のしくみとその病態生理	咳嗽②	講義・小テスト	
9	呼吸のしくみとその病態生理	呼吸困難①	講義・グループワーク	
10	呼吸のしくみとその病態生理	呼吸困難②	講義・小テスト	
11	腎・泌尿器のしくみとその病態生理	浮腫①	講義・グループワーク	
12	腎・泌尿器のしくみとその病態生理	浮腫②	講義・小テスト	
13	腎・泌尿器のしくみとその病態生理	脱水①	講義・グループワーク	
14	腎・泌尿器のしくみとその病態生理	脱水②	講義・小テスト	
15	循環のしくみとその病態生理	胸痛①	講義・グループワーク	
16	循環のしくみとその病態生理	胸痛②	講義・小テスト	
17	循環のしくみとその病態生理	動悸・不整脈①	講義・グループワーク	
18	循環のしくみとその病態生理	動悸・不整脈②	講義・小テスト	
19	循環のしくみとその病態生理	チアノーゼ①	講義・グループワーク	
20	循環のしくみとその病態生理	チアノーゼ②	講義・小テスト	
21	循環のしくみとその病態生理	ショック①	講義・グループワーク	
22	循環のしくみとその病態生理	ショック②	講義・小テスト	
23	筆記試験 45 分			
評価方法	筆記試験 小テスト・GW 参加態度 50%、終講試験 50%を総合して評価する			
教科書	解剖生理学 医学書院 成人看護学 消化器 医学書院 成人看護学 呼吸器 医学書院 成人看護学 循環器 医学書院 成人看護学 血液・造血器 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門基礎分野

科目名	疾病と治療 I 呼吸器・循環器・腎・泌尿器	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	2	45
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 呼吸器疾患の病態生理・検査・治療について理解する 2. 循環器疾患の病態生理・検査・治療について理解する 3. 腎疾患の病態生理・検査・治療について理解する 4. 泌尿器・男性生殖器における疾患の病態生理・検査・治療について理解する			
DP との 関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心を持ち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容	授業方法		
1	1. 呼吸器疾患の主な症状と病態生理	講義		
2	検査と治療・処置(検査)	講義		
3	検査と治療・処置(治療・処置)	講義		
4	疾患の理解(感染症・間質性肺疾患)特殊な感染症MRSAを含む	講義		
5	疾患の理解(気道疾患・肺循環疾患)	講義		
6	疾患の理解(呼吸不全・呼吸調節に関する疾患)	講義		
7	疾患の理解(肺腫瘍・肺・縦隔・横隔膜の疾患・胸部外傷)	講義		
8	2. 循環器疾患の主な症状と病態生理	講義		
9	検査と治療	講義		
10	検査と治療	講義		
11	疾患の理解(虚血性心疾患)	講義		
12	疾患の理解(心不全、血圧異常)	講義		
13	疾患の理解(不整脈)	講義		
14	疾患の理解(弁膜症)	講義		
15	疾患の理解(動脈系疾患・静脈系疾患・リンパ系疾患)	講義		
16	3. 腎臓の症状とその病態生理	講義		
17	疾患の理解 腎不全(透析療法)、慢性腎臓病	講義		
18	疾患の理解(ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、糖尿病性腎症)	講義		
19	4. 泌尿器の構造と機能・疾患の病態生理・検査と治療・処置	講義		
20	疾患の理解(尿路・性器の感染症)	講義		
21	疾患の理解(尿路の通過障害と機能障害))	講義		
22	疾患の理解(尿路結石・腫瘍・男性性機能障害)	講義		
23	筆記試験 3回			
評価方法	筆記試験 呼吸器 30%循環器・腎 40%泌尿器 30%を総合して評価する			
教科書	呼吸器、循環器 医学書院 腎・泌尿器 医学書院			
実務経験	本科目は医師として実務経験のある教員による授業である			

専門基礎分野

科目名	疾病と治療Ⅱ 消化器・アレルギー・膠原病 内分泌代謝・血液造血器	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	2	45
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 消化器疾患の病態生理・検査・治療について理解する 2. アレルギー疾患の病態生理・治療について理解する 3. 膠原病の病態生理・検査治療について理解する 4. 内分泌、代謝疾患の病態生理・検査・治療について理解する 5. 血液・造血器疾患の病態生理・検査・治療について理解する			
DP との関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容	授業方法		
1	1. 消化器疾患の症状と病態生理	講義		
2	主な検査 内視鏡検査 と治療	講義		
3	主な疾患の理解 1)食道疾患 2)胃・十二指腸疾患	講義		
4	3)腸及び腹膜疾患	講義		
5	4)肝臓・胆嚢疾患	講義		
6	5)膵臓疾患	講義		
7	2. アレルギー反応と機序・診断と治療	講義		
8	自己免疫疾患の検査と治療 1)免疫学的検査 2)薬物療法	講義		
9	疾患の理解 SLE・全身硬化症・関節リウマチ・クローン病・潰瘍性大腸炎	講義		
10	3. 内分泌・代謝器官の構造と機能	講義		
11	内分泌代謝疾患の症状と病態生理	講義		
12	検査	講義		
13	主な疾患の理解(内分泌疾患)	講義		
14	主な疾患の理解(内分泌疾患)	講義		
15	主な疾患の理解(代謝疾患)	講義		
16	主な疾患の理解(代謝疾患)	講義		
17	4. 血液・造血器疾患の整理と造血のしくみ	講義		
18	血液・造血器疾患の検査・診断と症候・病態生理	講義		
19	検査・治療の理解(赤血球系の異常)	講義		
20	検査・治療の理解(白血球系の異常・出血性疾患)	講義		
21	検査・治療の理解(造血器腫瘍)	講義		
22	筆記試験 3回	講義		
評価方法	筆記試験 消化器アレルギー40%(消 30%・ア 10%)、内分泌代謝 30%血液造血器 30%を総合して評価する			
教科書	血液・造血器、消化器、内分泌・代謝、アレルギー・膠原病・感染症 医学書院			
実務経験	本科目は医師として実務経験のある教員による授業である			

専門基礎分野

科目名	疾病と治療Ⅲ 運動器・脳神経	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	30
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 運動器疾患の病態生理・検査・治療について理解する 2. 脳神経疾患の病態生理・検査・治療について理解する			
DP との 関 連 性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回 数	学習内容	授業方法		
1	1. 運動器疾患の病態生理と症状・診断・検査・治療	講義		
2	主な疾患の理解 外因性の運動器疾患(骨折・脱臼・捻挫)	講義		
3	主な疾患の理解 外因性の運動器疾患 (神経の損傷)(筋・腱・靭帯の断裂)	講義		
4	主な疾患の理解 内因性の運動器疾患 (先天性疾患・骨・関節の炎症性疾患)	講義		
5	主な疾患の理解 内因性の運動器疾患 (代謝性骨疾患・脊椎の疾患)	講義		
6	2. 脳神経疾患の主な症状と病態生理	講義		
7	主な検査と治療(外科・内科的治療法)	講義		
8	主な検査と治療(外科・内科的治療法)	講義		
9	主な疾患の理解 1)脳疾患			
10	2)脊髄疾患	講義		
11	3)末梢神経疾患	講義		
12	4)神経・筋疾患	講義		
13	5)脳・神経系の感染症	講義		
14	6)中毒・てんかん・認知症・内科疾患に伴う神経疾患	講義		
15	筆記試験 2 回	講義		
評価方法	筆記試験 運動器 50%脳神経 50%を総合して評価する			
教科書	脳・神経 医学書院 運動器 医学書院			
実務経験	本科目は医師として実務経験のある教員による授業である			

専門基礎分野

科目名	疾病と治療Ⅳ 皮膚・耳鼻咽喉・眼	開講時期	単位数	時間数
		3 年次後期	1	30
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 皮膚疾患の病態生理・検査・治療について理解する 2. 耳鼻咽喉疾患の病態生理・検査・治療について理解する 3. 眼疾患の病態生理・検査・治療について理解する			
DP との 関 連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容	授業方法		
1	皮膚疾患の構造と機能、主な症状と病態生理	講義		
2	検査と治療・処置 (皮膚科的検査法・病理組織検査法・全身療法・外用療法を含む) 疾患の理解(表在性皮膚疾患)	講義		
3	疾患の理解(真皮・皮下脂肪および皮膚附属器の疾患)	講義		
4	疾患の理解(物質・化学的皮膚障害)・膠原病に伴う皮膚病変	講義		
5	耳鼻咽喉疾患の構造と機能、主な症状と病態生理 耳痛・耳漏・鼻閉・鼻漏	講義		
6	検査と治療・処置 視力検査・内視鏡検査・味覚検査	講義		
7	疾患の理解 耳疾患(中耳炎・突難・メニエール)・鼻疾患(急性副鼻腔炎を含む)	講義		
8	疾患の理解(咽喉頭疾患)	講義		
9	疾患の理解(気道・気道疾患)	講義		
10	眼疾患の構造と機能、主な症状と病態生理	講義		
11	検査と治療・処置(眼底検査・光凝固)	講義		
12	疾患の理解(網膜剥離)	講義		
13	疾患の理解(白内障)	講義		
14	疾患の理解	講義		
15	筆記試験(3回)	講義		
評価方法	筆記試験 皮膚 30%眼 30%耳鼻咽喉 40%を総合して評価する			
教科書	皮膚 医学書院 耳鼻咽喉 医学書院 眼 医学書院			
実務経験	本科目は医師として実務経験のある教員による授業である			

専門基礎分野

科目名	微生物学	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	30
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 病原微生物と感染についての概要を理解する 2. 病態微生物の種類とそれぞれの特徴を理解する			
DP との 関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 8. 看護に対する探究心を持ち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容		授業方法	
1	ウイルスの性質		講義	
2	ウイルス感染の機構		講義	
3	感染に対する生体防御機構		講義	
4	DNAウイルス		講義	
5	RNAウイルス		講義	
6	微生物の性質、微生物学演習		講義・演習	
7	細菌・真菌・原虫の性質		講義	
8	細菌感染の機構		講義	
9	自然免疫・獲得免疫・粘膜免疫		講義	
10	感染源・感染経路、消毒・滅菌		講義	
11	感染症の検査と診断		講義	
12	感染症の治療		講義	
13	病原細菌と細菌感染症		講義	
14	病原真菌と細菌感染症		講義	
15	病原原虫と細菌感染症		講義	
評価方法	筆記試験 ウイルス 40%細菌 60%を総合して評価する			
教科書	微生物学 医学書院			
実務経験				

専門基礎分野

科目名	薬理学	開講時期	単位数	時間数
		1 年次後期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 薬理作用の機序を理解する 2. 薬剤管理の基本を理解する 3. 各製剤の人体への作用・副作用及び投与方法を理解する			
DP との関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容	授業方法		
1	薬理学の基礎知識・薬理作用と人体への影響	講義		
2	薬物管理・麻薬管理・消毒薬	講義		
3	各製剤の人体への作用・副作用及び投与方法(抗がん剤・免疫治療薬)	講義		
4	各製剤の人体への作用・副作用及び投与方法(抗感染症薬・抗アレルギー薬)	講義		
5	各製剤の人体への作用・副作用及び投与方法(循環器系)	講義		
6	各製剤の人体への作用・副作用及び投与方法(末梢・中枢神経系)	講義		
7	各製剤の人体への作用・副作用及び投与方法(呼吸・消化器・生殖器系)	講義		
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	薬理学 医学書院			
実務経験	本科目は薬剤師として実務経験のある教員が授業を行う			

専門基礎分野

科目名	臨床薬理学	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 臨床現場で行われている薬物治療と、そこで扱う医薬品を理解する 2. 薬物療法における服薬指導技術を理解する			
DP との関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容		授業方法	
1	薬物治療の実際		講義	
2	主要疾患の臨床薬理学	高齢者の心不全の患者の薬物療法	講義・事例検討	
3	主要疾患の臨床薬理学	ハイリスク患者と薬物療法(腎不全・肝不全)	講義・事例検討	
4	主要疾患の臨床薬理学	糖尿病患者の薬物療法	講義・事例検討	
5	主要疾患の臨床薬理学	糖尿病の薬物療法(服薬指導)	講義・事例検討	
6	主要疾患の臨床薬理学	関節リウマチ	講義	
7	主要疾患の臨床薬理学	統合失調症・気分障害	講義	
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	臨床薬理学 医学書院			
実務経験	本科目は薬剤師として実務経験のある教員が授業を行う			

専門基礎分野

科目名	臨床療法 I	開講時期	単位数	時間数
		1年次後期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	2. 手術侵襲と生体の反応と必要な管理を理解する 3. 麻酔及びその管理について理解する 4. 救急救命処置の実際を理解する 5. 集中治療における医療機器の取り扱いについて理解する			
DP との 関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心を持ち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容		授業方法	
1	外科医療の基礎		講義	
2	外科治療を支える分野(麻酔法・体液管理)		講義	
3	外科治療を支える分野(呼吸管理・栄養管理)		講義	
4	集中治療をうける患者の看護・救急救命処置技術(外傷への応急処置、中毒への応急処置)		講義	
5	救急救命処置技術 一次救急処置(BLS)・止血法		講義・演習	
6	医療機器取り扱いにおける臨床工学技士の役割と看護師の役割 集中治療における医療機器の取り扱い(シリンジポンプ・輸液ポンプ)		講義・演習	
7	集中治療における医療機器の取り扱い(人工呼吸器)		講義・演習	
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	臨床外科総論 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院			
実務経験	本科目は医師・臨床工学技士として実務経験のある教員が授業を行う			

専門基礎分野

科目名	臨床療法Ⅱ	開講時期	単位数	時間数
		2年次前期	1	30
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. リハビリテーションの概念を学び、リハビリテーションにおける看護の役割を考える 2. 放射線の基礎について理解を深める 3. 臨床検査の基礎について理解を深める 4. 外科的療法の適応、および起こりやすい合併症を理解する			
DPとの関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容	授業方法		
1	リハビリテーション概念について	講義		
2	リハビリテーションの種類	講義		
3	自動運動・他動運動・体位ドレナージの実際	演習		
4	リハビリテーションの種類(言語療法)と嚥下訓練	演習		
5	装具・義肢・歩行補助具	演習		
6	放射線とは、放射線技師の役割	講義		
7	放射線科での主な検査の目的・種類・留意点・医療事故	講義		
8	臨床検査とは、臨床検査技師の役割とは	講義		
9	臨床検査 検査の目的・採取方法・取り扱い	講義		
10	外科的療法 腫瘍手術と合併症 食道がん	講義		
11	外科的療法 腫瘍手術と合併症 胃がん	講義		
12	外科的療法 腫瘍手術と合併症 大腸がん	講義		
13	外科的療法 腫瘍手術と合併症 胆肝系の腫瘍	講義		
14	外科的療法 腫瘍手術と合併症 膵臓がん	講義		
15	外科的療法 腫瘍手術と合併症 乳がん	講義		
評価方法	筆記試験 外科的療法・臨床検査・放射線 50% リハビリテーション 50%を総合して判断する			
教科書	治療法概説 メジカルフレンド社 (放射線) 臨床外科各論 医学書院			
実務経験	本科目は医師、理学療法士、臨床検査、放射線技師として実務経験のある教員による授業である。			

専門基礎分野

科目名	栄養食事療法	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	1	30
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 健康な生活を営む上で、栄養・食事の意義と役割を理解する 2. ライフサイクルにおける栄養について理解する 3. 各疾患患者の栄養食事療法について、臨床で活用できる知識を習得する			
DP との 関 連 性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容		授業方法	
1	栄養とは 三大栄養素・ビタミン		講義	
2	栄養とは 三大栄養素・ビタミン		講義	
3	栄養とは ミネラル 食事摂取基準		講義	
4	栄養素の消化・吸収・代謝		講義	
5	エネルギー代謝		講義	
6	エネルギー代謝・ライフステージと栄養		講義	
7	ライフステージと栄養・食品の表示制度・病態栄養		講義	
8	栄養食事療法		講義	
9	循環器疾患の食事療法		講義	
10	消化器疾患の食事療法		講義・事例検討	
11	消化器疾患の食事療法 食事指導の実際		講義・事例検討	
12	腎・泌尿器疾患の食事療法		講義	
13	栄養代謝疾患の食事療法		講義・事例検討	
14	栄養代謝疾患の食事療法 食事指導の実際		講義・事例検討	
15	筆記試験 2 回			
評価方法	筆記試験 中間試験 50% 終講試験 50%を総合して判断する			
教科書	栄養学 医学書院 栄養食事療法 医学書院			
実務経験	本科目は管理栄養士として実務経験のある教員が授業を行う			

専門基礎分野

科目名	保健医療論	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 人々の健康に関する医学・医療の目的や役割を理解する 2. 我が国の保健医療の現状と課題を理解する			
DP との関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 8. 看護に対する探究心を持ち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容		授業方法	
1	現代医療論導入		講義	
2	健康と疾病		講義	
3	健康と疾病		講義	
4	医学と医療		講義	
5	我が国の医療供給体制		講義	
6	現代医療における諸問題		講義	
7	死と生命保持		講義	
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	現代医療論 メジカルフレンド社			
実務経験	本科目は医師として実務経験のある教員が授業を行う			

専門基礎分野

科目名	社会福祉 I	開講時期	単位数	時間数
		1年次前期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 社会福祉の基本的な考え方を理解する 2. 医療と社会福祉の関連性を理解する			
DP との関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる			
回数	学習内容		授業方法	
1	社会福祉の概念と医療ソーシャルワーカーの役割と連携		講義	
2	社会保障制度		講義	
3	社会福祉の法制度		講義	
4	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向		講義	
5	社会保障のしくみ(医療保障制度)		講義	
6	社会保障のしくみ(介護保障制度)		講義	
7	社会保障のしくみ(所得保障)		講義	
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	社会福祉 医学書院			
実務経験	本科目は社会福祉士として実務経験のある教員による授業である			

専門基礎分野

科目名	社会福祉Ⅱ	開講時期	単位数	時間数
		2年次後期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 社会福祉の法律の構成を理解し、人々の生活と健康をどのように守っているのかを把握する 2. それぞれの福祉サービスを理解し、実践に役立つ知識を身につける			
DPとの関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる			
回数	学習内容		授業方法	
I	社会福祉の歴史		講義	
2	難病の患者に対する医療等に関する法律		講義	
3	社会福祉の分野とサービス(高齢者福祉)		講義	
4	社会福祉の分野とサービス(障害者福祉)		講義	
5	社会福祉の分野とサービス(児童家庭福祉)		講義	
6	社会福祉実践と医療・看護		講義	
7	社会福祉実践と医療・看護		講義	
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	社会福祉 医学書院			
実務経験	本科目は社会福祉士として実務経験のある教員による授業である			

専門基礎分野

科目名	関係法規 I	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 医療関連法規を理解する			
DP との関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる			
回数	学習内容		授業方法	
1	法の概念		講義	
2	医事法(医療法)		講義	
3	医事法(医療関係資格法)		講義	
4	保健衛生法(地域保健法)		講義	
5	保健衛生法(健康増進法)		講義	
6	保健衛生法(分野別保健法)		講義	
7	保健衛生法 (感染症に関する法律) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 (食品に関する法) 薬務法 (薬事一般の関する法律)		講義	
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書	看護関係法令 医学書院 公衆衛生がみえる メディックメディア			
実務経験	本科目は医師として実務経験のある教員による授業である			

専門基礎分野

科目名	関係法規Ⅱ	開講時期	単位数	時間数
		3年次後期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 看護領域に関連する衛生関係法規を理解する			
DPとの関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる			
回数	学習内容		授業方法	
1	看護法(保健師助産師看護師法)		講義	
2	保健師助産師看護師法 業務違反になる絶対的医行為と相対的医為 特定看護師に承認されている診療の補助について		講義	
3	看護法(保健師助産師看護師法)のまとめ		講義	
4	看護法(看護師等の人材確保の促進に関する法律)		講義	
5	労働法と社会基盤整備(労働基準法) 看護師の労働に関する法律とワークライフバランス		講義	
6	労働法と社会基盤整備 (労働安全衛生法)(労働者災害補償保険法)(育児休業法) 男女雇用機会均等法		講義	
7	保健衛生法(学校保健安全法)		講義	
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	看護関係法令 医学書院			
実務経験				

専門基礎分野

科目名	公衆衛生学	開講時期	単位数	時間数
		3年次後期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 公衆衛生の動向と地域社会における組織的な保健活動を理解し、集団における健康状態を把握する視点を身につける			
DPとの関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる			
回数	学習内容		授業方法	
1	公衆衛生とは		講義	
2	公衆衛生のしくみ		講義	
3	集団の健康をとらえるための手法—疫学・保健統計		講義	
4	環境と健康		講義	
5	環境と健康		講義	
6	感染症とその予防対策		講義	
7	地域における公衆衛生の実践		講義	
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	公衆衛生 医学書院			
実務経験				